ネッティ α（アルファ）　取扱説明書

＊この取扱説明書は必要なときに取り出しやすい場所に保管してください。

ラックヘルスケア株式会社

コード No. 2015.06

目次

タイトル　　ページ

1.　はじめに・・・

１．はじめに

この度は車いす『ネッティα（アルファ）』を
お買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本製品のご使用前には、必ず「取扱説明書」をよく
お読みいただき、正しく安全に使用してください。

ネッティαは「EN12183:２００７」に基づく品質テストを受けており、その品質はドイツのTÜVProduct service により認証された室内及び屋外利用のための車いすです。また、同商品はISO/FDIS7176/19 に基づく衝撃テストに関しても基準を満たしております。

車いすはユーザーのニーズに応えるべく、また適切なアセスメントに則って提供されるべきものです。そのため、各車いすの可能性（できること）と限界（できないこと）を把握することが重要です。
ネッティαは快適性と安心を求めるユーザーのために開発された車いすであり、ネッティ・シーティングシステムのもつ人間工学に基づいたフレームはユーザーにさまざまな適合と調節の可能性を提供します。

また、ティルト及びリクライニングの機能を活用することで、ユーザーに活動的な姿勢と安楽な姿勢の両方を提供することができます。

使用者最大体重：１３０ｋｇ

＊販売される国、地域により仕様が異なる場合があります。

１．１　品質と耐久性

ネッティαはヨーロッパの品質規格 EN１２１８３/2007 に基づきドイツの認証機関TÜVProduct Service によってテストされています。製造メーカーである Alu Rehab A/S社として同規格は通常の使用において５－６年の耐用年数に該当すると考えておりますが、実際の車いすの耐用年数はユーザーの障害の程度と
定期的なメンテナンスの頻度により変動するものです。

１．２　環境問題への取組

環境問題への取組として以下を実践しております。
- 環境に対し有害な物質の使用、製造プロセスをできる限り避けています。
- 環境的観点及び経済的観点より、長期にわたりご使用いただける商品開発を心がけています。
- 梱包に使われるすべての素材がリサイクル可能です。
- ネッティαは各々の構成素材への分解がしやすく、
  リサイクルを考慮したデザインとなっています。
- ネッティαは病院や施設などの介助スタッフの腰痛予防を
  考慮に入れた構造的工夫がされています。

1．3　安全にお使いいただくためのご注意

ご使用に際しては、重大な事故や車いすへの損傷を避けるために、必ずご使用前にこの取扱説明書を熟読してください。

警告	この表示事項を守らずに誤った取扱いをすると、重大な事故に繋がり、 使用者が重傷を負う恐れがあります。
注意	この表示事項を守らずに誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負ったり、 物的損害をこうむる恐れがあります。
	重要な情報を説明するマークです。

警告　　この表示事項を守らずに誤った取扱いをすると、重大な事故に繋がり、
使用者が重傷を負う恐れがあります。

- フットサポートの上に立たないでください。前方へ転倒する危険があります。
- アームサポート、フットレッグサポート、ヘッドサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
- ティルト角度、リクライニング角度を調節する際は、必ずブレーキと転倒防止バーが有効に機能していることを確認してください。
- バックサポート、介助ハンドル、ヘッドサポートに重い物を引っ掛けないでください。バランスを崩し後方へ転倒する恐れがあります。
- 車いす以外の目的に使用しないでください。
- 本製品は一人用です。複数の人数で乗らないでください。
- 車いすの分解、改造をしないでください。
  車いすの耐久性が低下し、事故の原因になる恐れがあります。
- 車いすを火気に近付けないでください。
- 高温な場所で保管しないでください。金属部分が熱くなりやけどする危険があります。

注意　　この表示事項を守らずに誤った取扱いをすると、使用者が傷害を負ったり、
物的損害をこうむる恐れがあります。

- ティルト・リクライニング角度やレッグサポート角度（エレベーティング）を調節する際は、車輪（メインホイール）やフレーム可動部に身体や衣服などを挟みこまないように注意してください。
- 車いすを移動する際は、車輪（メインホイール）などの可動部分に腕や指などを挟みこまないよう注意してください。
- 車いすの乗り降りは、平坦な場所で行ってください。
- ティルト角度、リクライニング角度を操作する際は、周囲にスペースがあることを確認してください。角度を変えると車いすの全長が変わり、壁や家具などを傷つける恐れがあります。
- ヘッドサポートを持って、車いすの移動や角度調節を行わないでください。
- 車いすを操作、調節する際はゆっくり動かしてください。急な操作を行うと、転倒・転落、ケガ等の原因となる恐れがあります。
- ヘッドサポートや介助ハンドルの調整ネジを締めすぎるとネジ山が潰れ固定できなくなる恐れがありますので注意してください。
- すべてのパーツ、ネジ及びナット等がしっかりと固定され、緩みが無いことを確認してください。

1．4　基本寸法

項目	標準仕様
座幅（mm）	４００
全幅（mm）	５８０
全長（mm）	１０５０
全高（mm）	１１４０
前座高（mm）	４４０
重量（ｋｇ）	約３０
使用者最大体重（ｋｇ）	１３０

２．概略

このページでは説明書全体の概要を簡単にご説明しております。
ご使用上注意やメンテナンスなどについて簡単に把握することが可能です。

ⓘ　：このページはあくまで再確認のためのものです。

- 車いすの開梱（5.1）
- メインホイールの取り付け（5.2）
- フロントキャスタの取り付け（5.3）
- バックサポートとリクライニングシリンダーの接続方法（5.4）
- シートクッションの取り付け（5.8）
- フットレッグサポートの取り付け（5.１０）
- ヘッドサポートの取り付け（5.11）
- 転倒防止バーの取り付け（5.7）

ⓘ　：トラブルシューティングについては（8）を、取り付けと調節については（5）をご参照ください。

２．１　同封部品の確認

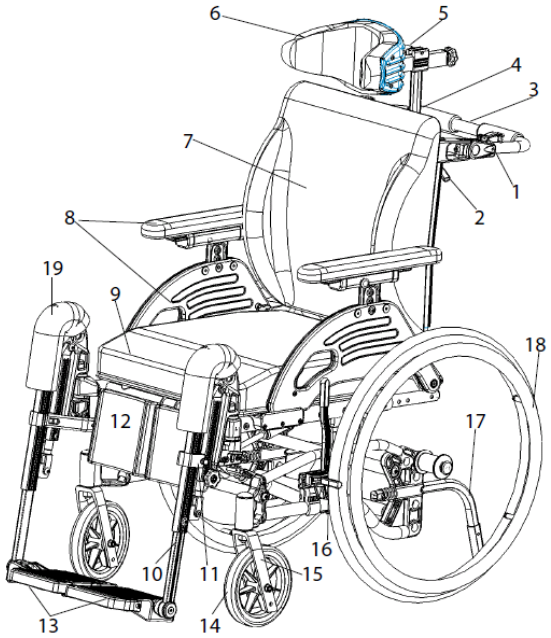
本製品には以下の部品が同梱されていますので、ご確認ください。
（オプションパーツ、特別仕様は除く）

- 本体フレーム　×１
- バッククッション　×１
- シートクッション　×１
- アームサポート　×２（左右：各１、本体フレームに付属しています。）
- フットレッグサポート　×２（左右：各１、カフサポートが付属しています。）
- ヘッドサポート　×１
- 転倒防止バー　×２
- メインホイール　×２
- フロントキャスタ　×２
- 取扱説明書　×１

３．各部の名称

標準仕様

① プッシュハンドルロック
② ティルト/リクライニングレバー
③ プッシュハンドル（介助ハンドル）
④ ヘッドサポートブラケット
⑤ ヘッドサポート奥行調節ネジ
⑥ ヘッドサポート
⑦ バックサポートクッション
⑧ アームサポート
⑨ シートクッション（ウノ）
⑩ フットサポート
⑪ カフサポートアダプター
⑫ カフサポート
⑬ フットプレート
⑭ フロントキャスタ
⑮ フロントフォーク
⑯ ブレーキ
⑰ 転倒防止バー
⑱ メインホイール
⑲ ニープロテクター



＊ この他ご不明なパーツがございましたら、取扱店までお問い合わせください

＊ この車いすは販売される国や地域により異なる場合がございます

4．ネッティαの特徴

シート	• シートクッション：ウノ（メッシュカバー仕様） • ティルト角度　：－5°～＋20° • 奥行　：37.5cm～45cm（2.5cmﾋﾟｯﾁ）
ホイール	• メインホイール　：22in×1in ノーパンクタイヤ • ハンドリム　：アルミ • キャスタ　：6in ノーパンクタイヤ
バックサポート	• リクライニング角度：92°～137° • 高さ　：48cm • バッククッション　：ウノ（メッシュカバー仕様） • 角度調節式プッシュハンドル
フットレッグサポート	• 高さ及び角度調節機能付 • 着脱可能
アームサポート	• 高さ及び奥行調節機能付 • 跳ね上げ可能
ヘッドサポート	• 高さ及び角度、奥行調節機能付 • 着脱可能

5．組み立てと調節

５．１　開梱と組み立て手順

①すべてのパーツと添付されている資料を箱から取り出してください。
②メインホイールとフロントキャスタを取り付けてください。
③バックサポート、シートクッション、フットレッグサポート、ヘッドサポート
　を取り付けてください。
④その他オプションパーツがあれば取り付けてください。

　＊必要な工具はそれぞれの項目で説明があります。

５．２　メインホイール

①中央のボタンを押しながらクイックリリース軸を
　ハブに差し込んでください。（5.2.1）
②奥まで差し込んでからホイールを引き
　固定されていることを必ず確認してください。

（5.2.1）

⚠	警告	使用前にメインホイール及びフロントキャスタが確実に固定されていることを確認してください。

⚠	警告	メインホイール及びフロントキャスタが固定されない場合には、使用を中止し取扱店にご連絡ください。

５．３　フロントキャスタ

①フロントフォークの下からクイックリリースの
　ボタンを押してください。
②ボタンを押したままキャスタブラケットに
　クイックリリース軸を差し込んでください。（5.3.1）
③奥まで差し込んでから固定されているか必ず
　確認してください。（5.3.2）

（5.3.1）

（5.3.2）

５．４　バックサポート

・バックサポートはリクライニングシリンダーを
シリンダーブラケットに差し込み接続します。
（5.5.1）

①シリンダーを差し込んでから、付属している
ロックピンをシリンダーブラケットの横から
差し込み、シリンダーを固定してください。
（5.5.2）

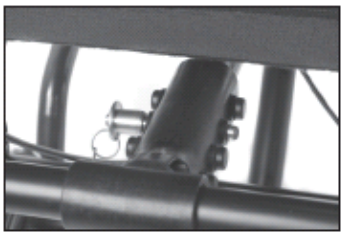
②ロックピンはクイックリリースとなっていますので、
ボタンを押しながら差し込んでください。
差し込み後、確実に固定されているか必ず確認して
ください。

（5.5.1）

（5.5.2）

⚠	警告	ロックピンを差し込んだ後、確実に固定されていることを必ず確認してください。

・シリンダーブラケットには４箇所穴が空いています。
ロックピンの差し込み位置は座面の奥行に合わせてください。

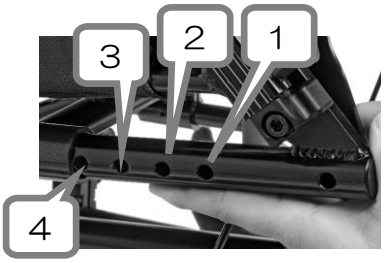


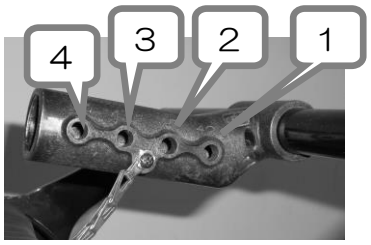
座面の奥行とシリンダーブラケットに関して

座面の奥行を調節する際には、右図を参考に奥行
とシリンダーブラケットの位置を合わせてください。

異なる位置に設定した場合、バックサポートの
角度調節（リクライニング）が正常に作動しない
場合や、破損の原因となる可能性がありますので
ご注意ください。

☆設定位置　①：３７．５ｃｍ
②：４０ｃｍ
③：４２．５ｃｍ
④：４５ｃｍ





5.

《後方での調節方法》

①座面の奥行を調節する際には、バックサポートを固定しているロックピンを外し、バックサポートとリクライニングシリンダーを分離してください。（5.5.2）

> ⓘ 奥行を短くする場合には、あらかじめバックサポートをいっぱいまで倒してから外してください。

②アームサポートのロックを解除してください。

> ⚠ 注意　アームサポートのロックがかかっていると奥行き調節はできません。

③バックサポートヒンジと本体フレームを固定しているネジを外しバックサポートをスライドさせることで奥行を調節することができます。（5.6.1）

・奥行は、37.5cm～45cm まで４段階で調節可能です。

（5.6.1）

④奥行を調節した後は、〔5.5〕の手順に従いバックサポートを取り付けてください。

・奥行を調節した場合は、シリンダーブラケットにあるロックピンの差し込み位置も変わります。

＊６mm 六角レンチ×１本を使用します。

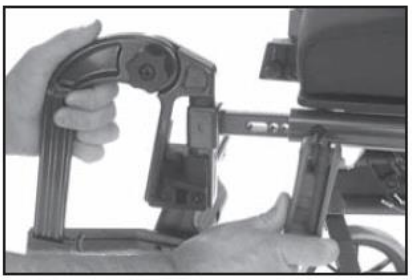
> ⚠ 警告　調節後はバックサポートヒンジが確実に固定されていることを確認してください。

> ⚠ 警告　ロックピンを差し込んだ後、バックサポートが確実に固定されていることを確認してください。

《前方での調節方法》

レッグサポート取付部のパーツを調節することで１０ｃｍまで長さを調節することができます。

①本体フレーム前方にあるネジを外してください。
②レッグサポート取付部を前方にスライドします。
③長さを調節したら、ネジで固定してください。
（5.6.2）
＊６mm六角レンチ×１本を使用します。
＊左右の長さを変えた場合には、フットサポートのロックが使用できなくなります。



（5.6.2）

５．６　転倒防止バー

・ 転倒防止バーの取り付け方法

①転倒防止バーを本体フレームに差し込みます。(5.7.1)
②バネを転倒防止バーに取り付けます。(5.7.2)
③ピンを転倒防止バーの先端に差し込み、
バネが外れないようにします。(5.7.3)

(5.7.1)　　(5.7.2)

(5.7.3)

・ 転倒防止バーの操作手順

①転倒防止バーを手前に引きます。

②転倒防止バーを１８０°回転させ、
下に向け、ロックさせます。

③転倒防止バーが固定され、車いすが
後ろに倒れないことを確認してください。

警告	車いすのプッシュハンドル部分などに、荷物など重いものを取り付けないでください。車いすのバランスが崩れ、後方に転倒する危険があります。
警告	安全に車いすをご使用いただくため、転倒防止バーは必ずご使用ください。

5．7　シートクッション

シートプレートの前端に合わせて、シートクッションを
取り付けてください。

5．8　バックサポートクッション

クッションはご利用者の状況に合わせて
位置を上下に調節し取り付けてください。

背張り調節を行う場合には、クッションを取り付ける前に
背張り調節用のベルトを緩めてからクッションをつけます。

5．9　フットレッグサポート

・このレッグサポートは長さ調節と角度調節が可能で、必要に応じて取り外すことができます。
また、フットサポートの角度も無段階で調節可能です。

Ⅰ．レッグサポートの取り付け（5.１０.1）

①フレームに対して２０°程外側に回転した状態で
垂直にレッグサポートを差し込んでください。
②次にレッグサポートを内側に回転させ、正面を
向くようにします。
③レッグサポートを下に押しこむと固定されます。

・取り外しには上の手順と逆に行ってください。

（5.１０.1）

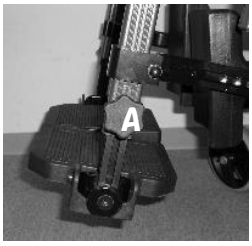
Ⅱ．レッグサポートの角度調節

①レッグサポートについている星型のネジを緩めると
角度調節を行うことができます。（5.１０.2）
②お好みの位置でネジを締めて固定してください。

Ⅲ．フットレッグサポートの長さ調節

・レッグサポートについている星型のネジ〔A〕を緩めると
長さの調節を行うことができます。（5.１０.3）
・長さを合わせたら、ネジを締めて固定してください。

高さ調節ネジを外すと受け側のナットの位置がずれ固定できなくなります。
ネジを付ける場合は、ナットの位置を合わせてからネジを締めてください。

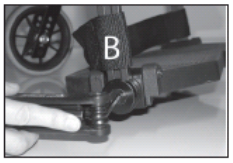


（5.１０.3）

Ⅳ、フットサポートの角度調節

・フットサポートは無段階で角度を調節することが可能です。
・フットサポートの横にあるネジ〔B〕を緩めると調節ができます。
調節後はネジを締めて固定してください。（5.１０.4）

＊５mm六角レンチ×１本を使用します。



（5.１０.4）

Ⅴ．フットサポートの固定と取り外し

・左右のフットサポートをつなげることで、安定性が増します。

①右足側のフットサポートにあるプラスチックロック（5.１０.5）を
スライドさせロックを外し、左足側のフットサポートにある
ボルトから離します。
②右足側のフットサポートを上にあげると
左右のフットサポートが外れます。

（5.１０.5）

Ⅵ．フットレッグサポートの取り外し

・フットレッグサポートは、少し上に持ち上げてから
外側へ回転させると取り外すことができます。
（5.１０.6）

（5.１０.6）

Ⅶ. カフサポートの調節

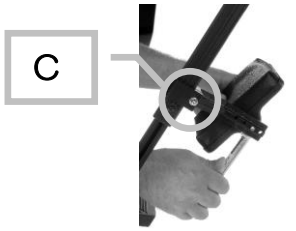
・カフサポートは高さと奥行の調節が可能です。

・カフサポートの高さ調節は、カフサポートアダプターを止めている
ナット〔C〕を緩めると調節ができます。（5.１０.１０）

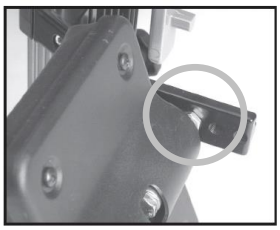
＊１０mmスパナ×１本を使用します。

・カフサポートの奥行調節は、カフサポートパッドとカフサポートアダプターの
間にあるナット（5.１０.11）を緩めてカフサポートパッドを取り外し、取り付け
位置を変更してください。（5.１０.10）奥行は４段階で調節可能です。

＊１３mmスパナ×１本を使用します。



（5.１０.10）



（5.１０.11）

⚠	警告	フットサポートに足を乗せたまま、立ち上がらないでください。 前方へ転倒し、ケガをする恐れがあります。

5．１０　ヘッドサポート

Ａ　：　**奥行**（前後）**調節ネジ**
Ｂ　：　**角度調節ネジ**
Ｃ　：　**高さ調節ネジ**
Ｄ　：　**ヘッドサポートアダプター**

①ヘッドサポートアダプターに調節ネジ（C）を付けてください。
②ヘッドサポートをアダプターに差し込んでください。
③ヘッドサポートの高さ、奥行、角度をユーザーに合わせて調節してください。

- ヘッドサポートの位置が調節では合わない場合、ヘッドサポートアダプターの角度、位置を微調節することができます。
- 調節する場合は、ヘッドサポートアダプターの上にあるネジと内側にある４個のネジを緩めて調節してください。
- ネジを締める場合には、４箇所のネジを少しずつ順番に締めてください。

⚠	注意	ヘッドサポートを持ってティルト・リクライニングを動かすことや、車いすを移動することは、パーツが破損する原因や転倒する恐れがありますのでおやめください。

⚠	注意	各部の調節を行う際には、必ずネジを緩めてから調節を行ってください。 ネジを緩めずに調節を行うと、破損の原因となります。

⚠	注意	高さ調節ネジと奥行調節ネジは締めすぎに注意してください。 ネジを締めすぎるとネジ山が潰れ、固定ができなくなります。

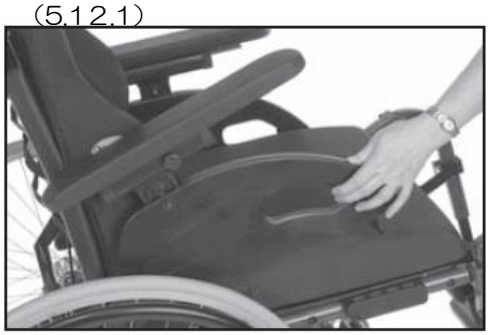
５．１１　アームサポート

Ⅰ．アームサポートの跳ね上げ

スカートガードの赤いレバーを握ると固定が外れ（5.1 2.1）
アームサポートの跳ね上げができます。

（5.1 2.1）

（5.1 2.2）

アー  いることを確認してください。

Ⅱ．アー

アーム
パッド

「と、

（5.1 2.3）

＊アームサポートパッドは、必ず固定される位置で
使用してください。

Ⅲ．アームサポートの高さ調節

スカードガードについているネジを緩めると
高さの調節ができます。（5.1 2.4）

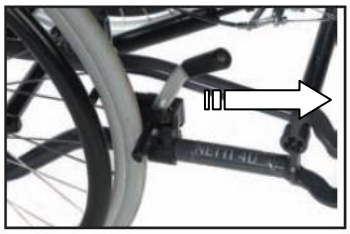
＊４mm六角レンチ×１本を使用します。

（5.1 2.4）

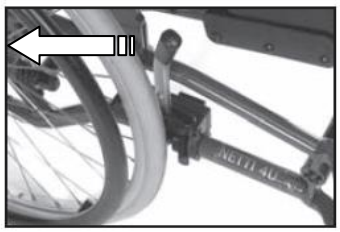
⚠	警告	アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。 車いすの破損やケガにつながる恐れがあります。
⚠	注意	ご使用の前に、アームサポートが固定されていることを確認してください。
⚠	注意	アームサポートパッドに重いものを乗せるなど、過度な荷重をかけないでください。
⚠	注意	アームサポートの跳ね上げをしたまま、ティルト角度の操作を行わないでください。車いすの破損やケガにつながる恐れがあります。

５．１２　ブレーキの調節

・ブレーキは微調節することができます。
・ブレーキレバーを前方へ押すと、ブレーキがかかります。（5.13.1）
・ブレーキレバーを後方へ引くと、ブレーキは解除されます。（5.12.2）



（5.13.1）



（5.13.2）

①ブレーキ位置を調節するには、ブレーキクランプの内側にある
２本のネジを緩めてください。（5.13.3）

（5.13.3）

②クランプの位置を決めたら、ネジを締めてください。

③クランプを設定した後の微調節は、クランプの上にあるネジ（5.13.4）
を緩めると調節できます。

④ブレーキ調節を行った後は、ネジが適切に締められていることを確認し、
ブレーキの効きを確認してください。

＊５mm六角レンチ×１本を使用します。

（5.13.4）

警告	ご使用の前に、ブレーキの効きを必ず確認してください。

警告	移乗や、ティルト・リクライニングの角度調節をする際は、必ずブレーキをかけ、転倒防止バーを下にさげてください。

５．１３　プッシュハンドル（介助ハンドル）

プッシュハンドルは角度調節が可能です。

①プッシュハンドルを固定しているロックバーを
　解除し、ハンドルの角度を調節してください。

②角度が決まったら、ロックバーを戻してください。

⚠ 警告	車いすのプッシュハンドル部分などに、荷物など重いものを取り付けないでください。車いすのバランスが崩れ、後方に転倒する危険があります。
⚠ 注意	角度調節をする際は、指などの挟みこみに注意してください。 ケガにつながる恐れがあります。
⚠ 注意	プッシュハンドルは、必ず固定ができる位置でご使用ください。 固定をせずに使用すると車いすの破損や、ケガにつながる恐れがあります。

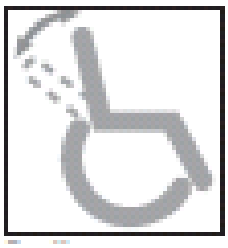
5．14　座面角度（ティルト）

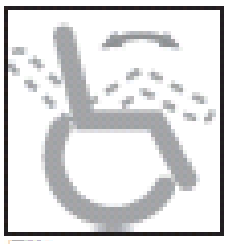
座面角度（ティルト）はプッシュハンドル（介助ハンドル）の左側にあるレバーを握ると、
-5°～20°（前傾5度～後傾20度）の範囲で調節できます。
レバーを離すと角度が固定されます。

5．15　バックサポート角度（リクライニング）

バックサポート角度（リクラニニング）はプッシュハンドル（介助ハンドル）の右側にある
レバーを握ると、92°～137°の範囲で調節できます。
レバーを離すと角度が固定されます。

＊プッシュハンドル（介助ハンドル）には、それぞれの機能を示すステッカーが貼ってあります。


〔リクライニング〕


〔ティルト〕

〔リクライニング〕
背もたれ角度調節機能

〔ティルト〕
座面角度調節機能

⚠ 警告	アームサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。 車いすの破損やケガにつながる恐れがあります。
⚠ 注意	移乗や、ティルト・リクライニングの角度調節をする際は、必ずブレーキをかけ、転倒防止バーを下にさげてください。

ⓘ ティルト及びリクライニングの操作は、介助者が横に立ち操作することをお勧めします。
車いすの後ろに立ち操作を行う場合に比べ介助者の負担が少なく、また、ご利用者の状況も

確認できるため安全に行うことができます。

ティルトとリクライニングの角度調節は同時に行わず、『ティルト角度→レッグサポート角度（エレベーティング）→リクライニング角度』の順番で操作することをお勧めします。

ティルト操作時

リクライニング操作時

後ろから角度調節を行う場合は、十分注意してください。

操作の順番はメーカーが推奨する方法であり、ご利用者の状況・状態やご使用の目的によって、操作は異なります。

注意	リクライニング角度調節を行う場合、アームサポートとバックサポートの間に腕などの挟みこみが無いことを確認してください。
注意	アームサポートを跳ね上げたまま、ティルト・リクライニングの角度調節を行わないでください。車いすの破損やケガにつながる恐れがあります。
注意	ティルト・リクライニングの角度調節を行う場合は、必ず平らな場所で操作してください。坂道や段差のあるところで操作するとバランスを崩し、転倒する恐れがあります。
注意	ティルト・リクライニングの角度調節を行うと、車いすの全長が変わります。家具や壁の側で操作を行うと、ぶつかる可能性があり危険ですので、周囲にスペースがあることを確認してから角度調節を行ってください。

6．取扱方法（操作方法）及び注意事項

警告	バックサポートやプッシュハンドルに重いものをひっかけないでください。 車いすのバランスが崩れ、転倒事故の原因となります。
	フットサポートの上に立ち上がらないでください。 前方へ転倒し、ケガをする恐れがあります。
	移乗する際や、ティルト・リクライニングの角度調節を行う場合には、必ずブレーキをロックし転倒防止バーを下に向けてください。
	アームサポート、フットレッグサポート、ヘッドサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。
	ご利用者が乗っている状態で、車いすを持ち上げないでください。
注意	介助者がついている場合を除き、転倒防止バーを下に向けて使用してください。
	段差の乗り越えや外出時には、フットサポートと地面の間に十分なクリアランスがあることを確認してください
	ご使用の前にブレーキの効きを確認してください。

６．１　基本事項

車いすの操作は、ご利用者の身体状況や着座位置、車いすの重心、セッティングにより影響が変わり駆動効率に影響します。メインホイールに乗る荷重の割合が高くなるほど駆動効率は高くなり、フロントキャスターへの荷重が高くなれば駆動効率は悪くなります。

６．２　段差を昇る場合

①前進で乗り越える場合
- 転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。
- 車いす全体を後方に傾けてフロントキャスタを浮かせてください。
- 段差の上にフロントキャスタを乗せ、直進してください。

②後進で乗り越える場合
- 転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。
- 車いすを後方に傾け、少しだけフロントキャスタが浮くようにしてください。
- 車いすを引いて段差を乗り越えます。この際、フロントキャスタも段差の上に乗せられるように十分に後方まで引いてください。

６．３　段差を降りる場合

①前進で降りる場合
- 転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。
- 車いすを後方に傾け、少しだけフロントキャスタを浮かせてください。
- 車いすを前方に進め、メインホイールを段差の下に接地させ、フロントキャスタを降ろします

②後進で降りる場合
- 転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。
- メインホイールを段差から降ろし、車いすを後方に少し傾けフロントキャスタを少し浮かせてください。
- 車いすを後進させ、フロントキャスタをゆっくりと接地させてください。

注意	段差の乗り降りをする場合には、十分なスペースがあることを確認してください。
	ご利用者が前方に転倒する恐れがありますので、十分注意してください。
	段差の乗り降りをした後は、必ず転倒防止バーを下に向けてください。

６．４　スロープ、坂道での操作

・スロープや坂道の途中で車いすの向きを変えないでください。
・スロープや坂道に対して、車輪が垂直になるように設定してください。
・スロープ上でバランスを崩さないように注意してください。

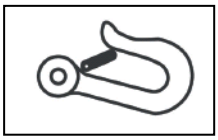
６．５　移乗

車いすからの移乗、車いすへの移乗については、ご利用者本人も含めて十分な練習を行ってください。
準備として下記の通り、注意事項を確認してください。

・車いすを移乗する先（ベットなど）にできる限り近づけてください。
・転倒防止バーを下に向けてください。
・確実にブレーキをかけてください。
・乗り移りを行う側のアームサポート、フットレッグサポートを取り外してください。
・外していない側のフットサポートは上げてください。
・フットサポートに足を乗せての移乗は、行わないでください。

６．６　搬送について

・車いすを車に固定するためのベルトは、安全ベルトとは異なります。
　ご利用者の安全を確保するために安全ベルトを使用することをお勧めします。
・ヘッドサポートを適切にセッティングしていれば頭部は安定しますが、車で搬送を行う際には
　十分でないことがあります。
・車いすの本体フレームには、ベルト固定位置を示すマークを
　４箇所シールで示しています。



・フレーム前方は右図（6.6.1）のように固定してください。

（6.6.1）

・フレーム後方の固定は、「トランスポート・アタッチメント」を
　取り付け、固定することをお勧めします。（6.6.2）

（6.6.2）

＊固定用のベルトは、０～４５°の範囲で取り付けてください。

7．メンテナンス

７．１　メンテナンスの方法について

ネッティα（アルファ）はモジュール車いすです。各部のパーツを交換することで長くご愛用いただくことが可能です。取り付けや交換方法については、各パーツの説明書を確認いただくか、取扱店にご相談ください。

：小さな傷や塗装に関しては補修ペイントで修理することが可能です。
取扱店にご相談ください。

：不具合や破損が発生した際には使用を中止し、取扱店にお問い合わせください。

：ボルトやナットがしっかりと固定されているか、点検と調節を行ってください。

＊確認・点検頻度の目安

確認・点検内容	使用前	毎月１回
破損や不具合の有無（欠損しているパーツの有無）	○	
車いすの洗浄（拭き掃除など）		○
クッションの洗浄		○
転倒防止バー	○	
ブレーキの効き具合	○	
タイヤの磨耗		○
ティルト・リクライニングの効き	○	

７．２　洗浄と消毒

① 車いす本体を洗浄する前にシートクッションを取り外してください。
② クッションカバーに印刷された洗浄方法に基づいて、シートクッションとカバーを洗浄してください。
③ 本体フレームを水拭き、もしくは中性洗剤で拭き掃除してください。
④ 高圧水流などの機器を使用する場合は、ガスシリンダー、各種ラベル、クッションに当たらないように注意してください。
⑤ 洗浄に際しては、中性洗剤をご使用ください。
⑥ 洗浄後は洗剤を洗い流し、水分を拭き取ってください。
⑦ 乾燥機などはご使用できません。
⑧ 本体フレームはアルコール溶剤での清拭は可能です。
⑨ 強いオゾンなどで消毒されますと、タイヤやクッションの変色や劣化の原因となります。
⑩ 水分を含んだ状態で、長時間おくとサビやカビの原因となります。

８．トラブルシューティング

状態	原因／対応	参照箇所
車いすがまっすぐ走行しない	・メインホイールのハブが適切に固定されていない。 ・片側のブレーキを強く締めすぎている。 ・ユーザーが左右に偏った座り方をしている。 ・ユーザーの力に左右でバラつきがある。	５．１２
車いすを駆動させると重い	・メインホイールのハブが適切に固定されていない。 ・メインホイール、フロントキャスタの汚れや髪の毛、糸くずなどを取り除いてください。 ・フロントキャスタに過大な荷重がかかっている。	５．２ ５．３
車いすが上手く回転しない	•フロントキャスタが強く締め付けられていないか確認してください。 ・メインホイール、フロントキャスタの汚れや髪の毛、糸くずなどを取り除いてください。 •フロントキャスタが適切な位置にセットされているか確認してください。	５．２ ５．３
メインホイールが簡単に外せない／はめられない	•クイックリリースについた汚れを拭き、グリスを注してください。 •メインホイールのハブを本体フレームから少し外側にだすように再調節してください。	５．２
ブレーキの効きが悪い	・ブレーキを調節してください。	５．１２
車いすがゆがむ	•各部のネジやボルトがしっかりと固定されているか確認してください。 ・フロントフォーク、メインホイールがしっかりと固定されているか確認ください。	

９．規格と保証について

ネッティαは屋内・屋外両用としてテストされており、

その品質には CE マークが付与されています。

使用者最大体重：１３０ｋｇ

TÜV Product Service GmbH
EN１２１８３：２００７.

CE マークが付与されています。
CE マークは EU 域内での医療器具として、
必要な要件を満たした商品に付与されます。

〇保証について

- 保証内容については添付の保証書をご確認ください。
- 製造メーカーである Alu Rehab 社が同意している一部の商品を除き、他社商品と組み合わせてご使用になる場合、すべての商品保証や CE マークは無効になります。
- 取扱説明書にない調節、セッティング、ならびに改造はすべて特殊な仕様に該当します。この場合、すべての商品保証は無効となります。
- 特殊仕様、特別調節を行う前に、必ず弊社までお問い合わせください。

１０．寸法と重量

項目	規格	備考
座幅（mm）	４００	スカートガード間の寸法
全幅（mm）	５８０	
全長（mm）	１０５０	
全高（mm）	１０９５	ヘッドサポートを除く
前座高（mm）	４４０	床面からシートプレートまで
座面奥行（mm）	３７５～４５０	シート前端からバックサポートヒンジまで
バックサポート高さ（mm）	４８０	シートプレートからバックパイプ上端まで
アームサポート高さ（mm）	２６０～３５０	段階調節、パッド前後調節可能
レッグサポート高さ（mm）	無段階調節	エレベーティング式、カフサポート付
座面角度（ティルト角度）	-5°～２０°	
リクライニング角度	９２°～１３７°	
メインホイール	２２in	ノーパンクタイヤ
ハンドリム	アルミ	
フロントキャスタ	6in	ノーパンクタイヤ
シートクッション	ウノ	メッシュカバー仕様、幅 40 ㎝×長さ 45 ㎝
バッククッション	ウノ	メッシュカバー仕様、幅 40 ㎝×高さ 50 ㎝
ヘッドサポート	Ａタイプ	メッシュカバー仕様
本体重量（ｋｇ）	約３０	標準仕様の場合
使用者最大体重（ｋｇ）	１３０	
梱包サイズ（mm）	635×720×635	幅×長さ×高さ
フレーム	アルミ製	本体カラー：グレー

＊　サイズは採寸の方法により、±１０mmの誤差がでる場合があります。
＊　各部の調節範囲は、設計時のサイズです。設定、仕様により調節できない場合がございますので、ご了承ください。
＊　上記は仕様変更などにより、予告なく変更する場合があります。

LAC

ラック ヘルスケア株式会社

大阪　〒542-0081
大阪市中央区南船場 2-10-2
TEL：06-6244-0636　FAX：06-6244-0836
東京　〒108-0014
東京都港区芝 3-43-16 KDX 三田ビル 11F
TEL：03-5419-8050　FAX：03-5419-8051
九州　〒862-0924
熊本市中央区帯山 2-1-23 パークヒル帯山
TEL：096-340-8101　FAX：096-340-8102